

大学院単位認定

この公開講座・セミナー・シンポジウム等は大学院医学研究科の単位認定対象となっております。単位認定の条件や対象科目等は下記をご確認ください。

単位認定条件

大学院生の方は、受講後、「出席票」を教務課(大学院担当)までご提出ください。
出席票は、履修管理システムからダウンロードすることができます。

【履修管理システム】

博士課程: <http://lms.juntendo.ac.jp/>

修士課程: <http://mst.juntendo.ac.jp/>

認定科目

【博士課程】

Current Topics ※必修「大学院特別講義」に振り替えることはできません。

【修士課程(医科学コース)】

選択科目「大学院セミナー」

【第68回 難病・遺伝医学セミナー】

講演：細胞内シグナル伝達の動的な変化がインスリン分泌に与える影響

2026年12月7日（月） 16:00～17:00

順天堂大学7号館（A棟）7F S・Nカンファレンスルーム



講師紹介：Dr. Mark O. Huising

University of California, Davis教授・米国科学振興協会フェロー
生物科学部 神経生物学・生理学・行動学、および医学部 生理学・膜生物学

座長：岡崎 康司（難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター）

司会：松本 征仁（難病の診断と治療研究センター・難治性疾患診断・治療学）

概要

膵臓の β 細胞は、食事後の栄養素の吸収に必要なインスリンを産生・分泌できる、体内で唯一の細胞です。インスリンの放出を正確に制御することは極めて重要です。インスリンが不足すると糖尿病を引き起こし、逆に過剰になると命に関わる低血糖を引き起こすリスクがあります。膵臓が栄養素の恒常性を維持できなくなったときに初めて、その重要な役割が明らかとなり、健康な膵臓からのインスリン分泌が、インスリンの必要量とどれほど見事に調和していることが理解できます。このような β 細胞の重要な機能は、膵島内の他の内分泌細胞、特にグルカゴンを産生する α 細胞やソマトスタチンを産生する δ 細胞との相互作用によってもたらされます。したがって、インスリン分泌を形作るこの複雑で動的な膵島内相互作用を最もよく理解するには、膵島の3つの主要な細胞タイプすべてにおいて、カルシウムとcAMPの動的な変化を同時に定量することが最善の方法です。膵臓の α 細胞から放出されるインクレチンやその他のグルカゴン前駆体由来ペプチドは、食後相におけるインスリン分泌を促進します。対照的に、ソマトスタチンは、 β 細胞への直接的な抑制と α 細胞の抑制を併せて行うことでインスリン分泌を抑制し、それによってグルカゴンによるインスリン分泌の増強を制限する。3つの主要な膵島内分泌細胞が、動的に変化する栄養素に応答してインスリン分泌を調節するためにどのように協調しているかをより深く理解することは、1型および2型糖尿病におけるインスリン分泌機能をより効果的に回復させる上で重要である。

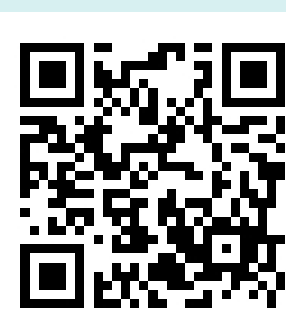
申込方法：右下のQRコードよりお申込みください。

申込方法：右記の申込フォームURL・QRコードよりお申込みください。

開催日までに詳細と招待URLのご案内メールをお送り致します。

<https://forms.gle/PBx5xHXU6mgjrc3cA>

本講演はハイブリッド形式（現地+Zoom）にて開催いたします。



11月27日(木)17時 締切

お問い合わせ

難病の診断と治療研究センター／ゲノム診療センター／難治性疾患診断・治療学

松本/大淵（内線5169）

共催：順天堂大学大学院医学研究科

順天堂大学大学院HP

